

名手協賛出演
△：水藤錦機演奏会 十一月十四日昼夜、東京才一証券ホール

（住所表示変更）
竹下翠風氏 東京都杉並区下高井戸五ノ二二ノ一二 氏。

（電話）
（開通）京都 美登里進水氏（341）一六七四番（局番変更） 釧路伊藤金次郎氏（22）局に。

よもやま （敬称略）



○：錦古流春の詩吟琵琶大会 四月十三日昼 群馬県多野郡新町役場住民大ホール（主催 錦古流詩吟会本部・同新町支部）琵琶川中島、乃木將軍、菅公、吉野懷古、噫相模湖（以上合奏）、湖水乗切一四方田雅風 石童丸一内山錦秀 吟詠ひめゆりの塔一針谷錦古の外詩吟吟吟吟吟四十八番
○：城山会第二回演奏会 六月二十一日夜札 堀上野楽器階上（主催薩摩琵琶城流城山会道支部） 会津白虎隊・鳴呼結城先生一 中井岳嵐 城山・千手の前一 広川岳嵐 吉野の奥・小栗栖一 山岸岳嵐 桜井の駅・六号潜水艇一 横山岳嵐 詩吟登高・彰義隊一 静岡森鷗堂

○：六周年記念吟詠と琵琶の集い 六月二十二日昼函館フコク生命会館（主催藤水吟詠会） 屋島の蒼一高橋蘇水 彰義隊一静岡森鷗堂 外に吟詠六十一題
○：第十回演奏大会 六月二十二日昼大阪府立婦人会館（主催中山鳳水） 木村重成一 中山鳳水 霧の川中島一白石純之助 菅公一能波武雄 桜狩一梶浦輝章 城山一養老勇峯 良寛一野間政峯 白虎隊一宮之原聖水 姫百合の塔一坪井旭寿、松本旭勇、石橋旭嶺 川中島一佐々木寒水 元寇一平井春嶺 淀君一田中敷水 楠公菊水の旗一矢野旭信、辻旭城、島津旭抱、石橋旭嶺 陽江（山之内兼光 耳なし芳一）馬瀬繪水 西郷隆盛一酒田辻有水 本能寺一東京谷暉水 外に詩吟十八題
○：桜会夏の集い 六月二十九日昼東京新宿朝日生命地下日本間（主催錦びわ桜会） 西行桜一水藤錦機 青葉の笛一松井きみえ 耳なし芳一 小島藤舟・絃桜華、錦機 井伊大老一鈴木桜陽 修善寺物語「桂」一藤波桜華 兵士と母一西村錦風 新撰組一小沢錦彌 弁の内侍一新部桜水 利休の最期一賛助山崎光水 奇縁一岡弘沢雨水 富盛の涙一岡石田修水 幻想曲「静」一 女流合奏 盛綱先陣一水藤錦機 外に賛助吟詠二題
○：輝紋会琵琶会 六月二十九日夕東京麻布十番会館（主催同会） 相模湖一菊地甘水 川中島一後藤朗水、佐藤源水・絃直井洋水

龍の口一熊木施水 白虎隊一佐藤晴水、巡礼お鶴一関恵水 茨木一伊藤馨水 湖水乗切一内田翠水 敦盛一杉本淳水 本能寺一桑原敬水 羅生門一山口速水 外に詩吟十題、舞踊一番

とあ 何千年も昔の人がブルーマリンの空に星のきらめきで綴った星座愛の物語、高牛織女が天の川で年に一度だけの逢り七月七日のたなばた祭に地球人の目と耳が三十八万四千四百キロ隔てた月面に集中し今世紀最大の歴史的人間月着陸の壮挙、京の三大祭の筆頭、長刀鉾、月鉾等二十九基の山鉾巡行で洛中洛外を沸かせ感激のルッポに巻き込んだ祇園祭の壮観、梅雨の置土産で九州その他に甚大な被害をもたらした集中豪雨、福等々多端な七月が終って世は流汗淋漓の盛夏八月に入ると鎖夏特別号と銘打った本号も各地方から寄せられた貴重な記事や京絃刊十五周年お祝詞等の積残が多くなって登載しきれず申訳ない結果となったがどうか次号以降に御期待願いたい。あと一ヶ月余の辛棒、九月の声を聞けば暑さもぐんと減って涼しくなり夏負けの琵琶界もそろそろ活気を取戻そう。

昭和四十四年八月一日発行（非売品）
編集者 植村 眞水
発行所 京絃社
京都市北区衣笠西馬場町二九
和田才一ビル 二〇一号
電話（462）八三二六（461）二八七六番
内線 二〇一 番

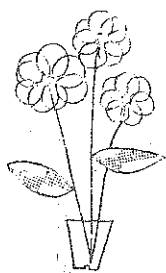
琵琶
機関紙

京絃

才一八二号 京絃社

『平家物語』の物語 (二七)

扇の物語



折節北風はげしくて、磯うつ浪も高かりけり。舟はゆり上げゆりすえ漂へば、扇も串に定まらず閃きいたり。沖には平家、船を一面に及べて見物す。渚には源氏、扇を並べて是をみる。何れも何れの晴ならずと云ふ事なし。与一目を瞑いで「南無八幡大菩薩……」

那須与一はやら、かっと目を開いた。うれしや風はおさまり、的の扇はビタリと静止している。ひょうと、と放った矢は唳りをあげて飛ぶ。瞬間、空へ舞上がり、海上に落ちる扇。屋島源平合戦の名場面。

平家は船上から、源氏は岸辺から激しい矢合せの末、戦いが一段落した日暮どき。平家の船団から漕ぎ出てきた一雙の舟に、女房が竿の先へ日の丸を書いた扇をつけ「之を射よ」と源氏に挑発した。遠い射程距離、激しく吹きまくる北風、悪条件の中で与一が見事射落した話。古来琵琶、講談から教科書にまで

登場している。

が、同じ与一が扇を射落した直ぐあとで、感にたえず船上で舞を舞った平家の武者を、無造作に射殺す。これは意外に忘れられている。与一の次の矢は、今度は舞っている平家武士の体をぶつくりと貫き、船底へまっさかさまに射倒す。「扇の的」という戦争佳話とは裏はらな、これは何と血腥い話か。平気でそれをやってのけるのは荒くれだ。た関東武者の側面をのぞかせている。

永く平家の施政下にあった屋島、平家の貴族趣味が土着民に浸透と映ったのか、鬼に角香川果木田郡牟礼町には平家びいきの感情が残っているのが面白い。町の教育委員会で「そりゃ平家は善政を敷いたに違いないやませんよ」と、町内にある菜切地蔵の伝説を話してくれた。源氏は屋島を乗取ったが、住民は荒武者の振舞をきらい、食事のためのマナ板一つ提供しない、源氏方は炊事も出来ないのてやむを得ず石地蔵を倒し、その背中に菜切

葉を齧いて弁慶が長刀でささみ汁を作った、というもの。「荒々しく無神経の源氏の軍隊には土着民も体質的について行けなかった。それがこころした伝説に結びついたんでしょ」。屋島の戦のエピソードは与一だけではない。義経の身代りとなって能登守教経の強弓に射落とされた佐藤嗣信の話。その首を取ろうと走り寄って射られた平家の若武者菊丸の話。義経が激戦中に弓を流しかけたが「こんな弱い弓が義経の弓かと笑いのにされた」と飛び交う矢の下で拾い上げた「弓流し」の話等々。そうした挿話を忍ばず遺跡が町中に点在している。殆ど訪ねる人もなく、路傍にほったらかしになっているのが他なし。

与一が「南無八幡大菩薩」と祈った場所という「祈り岩」も、街道のバス停留場になっていて、バス停前の雑貨店の軒下に石碑があって、その傍らに僅かにそれらしい岩はだを見ているだけ。与一はここで扇の的を射た、そしてその直後に無雑作に平家の武者を射殺した。これは関東武者の荒くれぶりを示しただけだろうか、或は戦争という異様な事態ですさんだ人間行動がそうさせたものか、与一の二の矢が平家の武者を倒したとき「やあ射た」という者と「いや無慈悲なことを」と云う者があつた。と平家物語は伝えている。殺人にマヒしてしまつたりつるな言葉が「やあ射た」であり、その半面自らの残酷さに気付き、それ恐ろしくなって口走つたのが「いや無慈悲な」ではないか。平家物語が反戦文学

新撰組盛衰記 (下)

旭城

いまの京都の街で騒動を起すのは、学生デモ隊と警察機動隊の衝突で、絶えず新聞紙の三面記事を賑わせている。昨年の夏京都国際会館で開かれた日米会談のときは特に凄まじかった。群衆から「新撰組」という掛声が上ったほどである。現代の新撰組は学生の精鋭部隊が石やゲバ棒で、治安を護る機動隊へ必死の大攻撃を加えている。大学生はヤクザではない、郷里の親たちの身にもなって真面目に勉強してほしいものである。

余談になったが、このたび京都市観光協会が選んだ維新百年観光案内書に「壬生」の文字は見当らなかつた。しかし琵琶歌をはじめ映画、歌舞伎、TVなど数多く「新撰組」は取上げられている。

時間があつたので再び壬生寺に引返し、住職に行事を聞いてみた。壬生寺の厄除け節分会は京の年中行事の一つに数えられ、白河天皇の発願によって始められた。毎年二月二日

から三日間、大念仏堂で無形文化財の壬生狂言「節分」が開演される。狂言の筋書きは節分の日の夕方、後家が怪(ひいらぎ)に瀕の頭を挿して門口に差し込んでいる所へ「厄を払いまひょう」と云って厄払いの男が来るので、そのまじないをして貰って男が帰ったあとで鬼が出て来て瀕の頭を喰い、門口から家の中をのぞくと奇麗な後家が居るので、戸を開けようとすると、後家は鬼の角(つ)を見て逃げ出す。鬼は秘法の打出の小槌を四、五回振って美しい衣服や頭巾を取出し、これを着て再び後家宅を訪れ、女物の美しい着物を与えて後家と共に酒宴を始め、酔いつぶれて寝てしまふ。後家は頃合いを見て鬼の打出の小槌を奪い、「化け物、正体現わせ」と小槌を振れば、今まで奇麗な若衆姿が見るも恐ろしい鬼となった。怒った鬼は「ウオーッ」と唸って後家につかみかかろうとするが、後家は鬼の大嫌いな豆を撒いて鬼を払うというお笑い狂言である。

十年ほど前、壬生寺の住職が地区の共同墓地からそれぞれ隊士の墓石を集め、「壬生塚」と名づけて境内に祭り怒りに供養をした。子供の世界にも大人の胸にも、新撰組はなぜか生残ってゆく。それは判官びいきと云われる義経の伝説や、忠臣蔵の赤穂義士にもひけをとっていないようだ。

悲劇的な琵琶の歌や絃で奏でられる「新撰組」の盛衰が、今もなを日本の国民性どこか訴えるものを持っているようである。(完)

暑中御見舞

池上作三

東京都板橋区板橋一丁目
 郵便番号 211番四号
 173
 電話(961) 1100番

切抜帳から(四一)

平井 春嶺

。終戦の真相(一九)
 十二、終戦の御詔勅とそれをめぐる一部軍人の策動

かくして内閣は終戦の詔勅を起草することになりましたが、実は終戦の詔勅は内閣に於て起草すべき性質のものでありましたから、私(追水久常氏、以下同じ)はその責任者として既に十日の夜から、十三日の夜まで夜半その起草に着手して居りました。原稿用紙は涙のあとで一杯でした。即ち九日夜の御前会議の陛下のお言葉をそのまま文語体に改めたものであります。私の之しい漢文の知識でまとめたものでありますので、通常の詔勅よりやさしいのであります。唯文法の誤りがあつてはと思ひ、安岡正篤、竹田瑞穂先生に見て頂きました。有名な「万世の爲めに太平を開く」という文句は、安岡さんが支那の古典の中の成句を教えて下さったのでした。このものに十四日御前会議の陛下のお言葉によって修正したものを議題として審議致したのであります。午後八時審議を終了しそのまま、陛下のお手許に差し出し、御嘉納がありました。一切の詔書公布の手続を終了しましたのは、十四日午後十一時でありました。即ち大東亜戦争の公式終了の時間は昭和二十年八月十四日午後十一時であります。直ちに米國にボツダム宣言を受諾した旨電報致したのであります。

す。御詔勅は陛下の御心持をそのまま表して
 すると思ひます。

詔書

朕深ク世界ノ大勢ト帝國ノ現状トニ鑑ミ非常ノ措置ヲ以テ時局ヲ收拾セムト欲シ茲ニ忠良ナル爾臣民ニ告ク

朕ハ帝國政府ヲシテ米英支蘇四國ニ對シ其ノ共同宣言ヲ受諾スル旨通告センメタリ抑々帝國臣民ノ康寧ヲ図リ万邦共榮ノ樂ヲ惜ニスルハ皇祖皇宗ノ遺範ニシテ朕ノ眷々措カサル所爰ニ米英二國ニ宣戦セル所以モ亦美ニ帝國ノ自存ト東亞ノ安定トヲ庶幾スルニ出テ他國ノ主權ヲ排シ領土ヲ侵スカ如キハ固ヨリ朕力志ニアラス然ルニ交戦已ニ四歳ヲ閱シ朕力陸海將兵ノ勇戦朕力百億有司ノ励精朕力一億衆庶ノ奉公各々最善ヲ尽セルニ拘ラス戦局必スシモ好転セス世界ノ大勢亦我ニ利アラス加之敵ハ新ニ殘虐ナル爆弾ヲ使用シテ頻ニ無辜ヲ殺傷シ慘害ノ及フ所真ニ測ルヘカラサルニ至ル而モ尙交戦ヲ繼續セムカ終ニ我力民族ノ滅亡ヲ招来スルノミナラス延テ人類ノ文明ヲ破却スヘシスノ如クムハ朕何ヲ以テカ億兆ノ赤子ヲ保シ皇祖皇宗ノ神靈ニ謝セムヤ是レ朕カ帝國政府ヲシテ共同宣言ニ応センムルニ至レル所以ナリ

朕ハ帝國ト共ニ終始東亞ノ解放ニ協力セル諸盟邦ニ對シ遺憾ノ意ヲ表セサルヲ得ス帝國臣民ニシテ戦陣ニ死シ職域ニ殉シ非命ニ斃レタル者及其ノ遺族ニ想ヲ致セハ五内為

暑中御見舞

宮崎直二

東京都世田谷区太子堂
 二丁目二番八号
 電話(414) 六五七八番
 郵便番号 154

ニ裂ク且戦場ヲ負ヒ災禍ヲ蒙リ家業ヲ失ヒタル者ノ厚生ニ至リテハ朕ノ深く軫念スル所ナリ惟フニ今後帝國ノ受クヘキ苦難ハ固ヨリ尋常ニアラス爾臣民ノ衷情モ朕善ク之ヲ知ル然レトモ朕ハ時運ノ趨ク所堪ヘ難キヲ堪ヘ忍ビ難キヲ忍ビ以テ万世ノ為ニ太平ヲ開カムト欲ス

朕ハ茲ニ國体ヲ護持シ得テ忠良ナル爾臣民ノ赤誠ニ信倚シ常ニ爾臣民ト共ニ在リ若シ夫レ情ノ激スル所盛ニ事端ヲ滋クシ或ハ同胞排擠互ニ時局ヲ乱リ為ニ大道ヲ誤リ信義ヲ世界ニ失フカ如キハ朕最モ之ヲ戒ム宣シク拳國一家子孫相伝ヘ確ク神州ノ不滅ヲ信シ任重クシテ道遠キヲ念ヒ総力ヲ将来ノ建設ニ傾ケ道義ヲ篤クシ志操ヲ堅クシ誓テ國体ノ精華ヲ發揚シ世界ノ進運ニ後レサラムコトヲ期スヘシ爾臣民其レ克ク朕カ意ヲ体セヨ

御名 御 璽
昭和二十年八月十四日

内閣総理大臣	男爵 鈴木貫太郎
海軍大臣	米内 光政
司法大臣	松阪 広政
陸軍大臣	阿南 惟幾
軍需大臣	豊田貞次郎
厚生大臣	岡田 忠彦
国務大臣	榎井兵五郎
国務大臣	左近司政三
国務大臣	下村 宏
大蔵大臣	広瀬 豊作

文部 大臣 太田 耕造
農商 大臣 石黒 忠篤
内務 大臣 安倍 源基
外務大臣兼 東郷 茂徳
大東亞 大臣 安井 藤治
國務 大臣 小日山直登
運輸 大臣

斯くして大東亞戦争は終りました。だが陸軍大臣から深夜このことを発表するときは、軍が動揺する恐れあるにつき発表はしばらく延期せられ度き要望がありましたので、十五日正午発表ということに致し、陛下の御思召しもあってこの御詔勅をラジオにて陛下に朗読して頂き、以て一般に公表することに致したのであります。

陛下は即時録音をとると仰せられ、午前零時情報局総裁下村宏氏が放送局員を引連れて奉仕致し、概ね十五日前一時頃終了し、私もその旨報告を受けて先ず一段落と思ひ、書記官長室の椅子に坐しホット致しますと、次から次にいろいろと感懐深く、果して戦争をやめた方がよかったか、戦争を継続すれば奇蹟が起つて勝つことになったのではないかなど、胸をかきむしられる様な気持ちでありました。

ただ天皇陛下が止めよと、仰せられたのだから間違ひあるはずはないと心を落着け、さて次に何を為すべきかと思ふ中にそのまま旬日の全く不眠不休の疲れからか、ついうとうとと致しました。

暑中御見舞

日本琵琶振興会

例会場

東京新宿駅中央正面
尾津ビル歌舞練場

事務所

越谷市東方二三九二
電話〇四八九〇二四一三
郵便番号 343
鈴木 密水 内

何時頃でしたか、四時頃であったと思ひます。白々あけだした頃機関銃の音にはっと我に返りました。私は飛行機からする機関銃の掃射と思ひ米軍も怪しからんな、もう戦争はすんだのだと思ひました。

そのとき丁度前晩から来て居りました私の実弟が「兄さん軍隊が正門前から官邸を射撃しているのです」と申します。

これは横浜の或る部隊の一部のものが終戦の噂を聞いて、総理邸を襲つて来たものでした。そのうちに、私の室の窓枠にも弾丸があたります。

幸い総理は前夜十一時半頃、私邸の方に帰られて居りましたので、私は早速電話にて、総理にその旨報告し至急避難されるように申し上げたのでありますが、そのうちに襲撃部隊も首相不在を知つて玄關に石油をまき放火して退散しました。

直ちに火を消すと共に私は大事をとつて、地下道から脱け出して警視庁に参り、町村警視總監と会して市中の状況を調べて見ました。この軍隊はその足にて総理の私邸を襲つてこれを焼払い、更に平沼枢密院議長の私邸を襲つてこれを焼きました。総理は全く一足違ひにて退避されて無事でありました。

所がこれに増して大きな事件が起きて居たのであります。(以下次号)

暑中御見舞

錦心流琵琶と詩吟
蓮水会

三浦蓮水

西宮市羽衣町七一三四
電話西宮(33)五八八七番
郵便番号 662

會員一同

錦水会派薩摩琵琶

錦城 柿本吉郎

東京都台東区駒形二ノ四ノ八
電話浅草(841)五〇番代
郵便番号 111

薩摩琵琶正統会員
正派鶴声風薩摩琵琶教授
日本吟詠鶴声流正吟会長

伴野鶴風

静岡市香谷三丁目一九三ノ二
電話(61)九四四四番
郵便番号 420

創刊十五周年を迎えられ心より御祝詞を申し上げます。最近京絃の記事内容がメッキリ充実してきたことは、主幹植村實水氏の孤軍奮闘の結果と思われまふ。一時は読むのをやめようかと想った事もあったが、この頃の京絃は生れ替ったよりの感がある、というのには吾等琵琶人に対して成る程なあとうなづかせられる記事が豊富に載せられるからで、勿論植村氏の努力も去る事ながら、琵琶をやる人、聴くのが好きな人又は歌詞の内容に関心を持つ人等の協力もあって、今日立派な京絃として育成された結果と思われる。してみれば読むのを止めてはいけない、引続いて読もうと決意を新たにしたい次第であります。寝た子を起すな、と云った時代もあったが、現今では鞭打って起して貰わなければ琵琶界は寝て終り段階に来ている。益々斯界の向上発展のため猛筆をふるって、寝んとする琵琶人を鞭打って頂きたい。而して堅実な御発展をお祈り申上げて祝詞に代えます。(一水会名古屋支部長)

（前略）此度は十五周年記念号御発刊にお目出度う存じます。大変な御苦勞の連続でしたネ。自分の仕事に誰しも手一杯の中を、京都琵琶連盟の運営、それに機関紙の発行と並々ならぬ御努力、正に千手観音サマと申上ぐべきか。毎号琵琶に關連した記事が満載さ

暑中御見舞

薩摩琵琶高昇流家元 泉勝院 峰口高昇 和歌山県白浜温泉浜通 白良ヶ丘 郵便番号649の22 電話 二三六八番	薩摩琵琶 錦水会 正絃会・四明会・さつき会々々員 岡部 錦蝶 東京都新宿区十二社四一九 電話(377) 八一―一四番 大阪市西区京町堀五ノ一 伊勢谷方電話(44) 一九六六番	京都琵琶協会員 中島 真水 京都市東山区松原通大和大路 東入弓矢町五五一―一八 電話(54) 九〇九一番 郵便番号 605	清吟会 大井 錦淀 埼玉県大里郡寄居町玉淀 電話(四八五) 七四〇番 郵便番号 369の12	熊木 秀司 埼玉県川越市南通町二ノ二 電話川越(2) 四四六一番 郵便番号 350	竹下 翠風 東京都杉並区下高井戸 電話(303) 五八九四番 郵便番号 166	錦心流琵琶 清水 史水 明石市和坂字割池谷七四九 ノ三 栄荘 郵便番号 673
---	---	--	--	--	--	---

れ、よくもマア調べたものだと思つています。京絃は京絃の特色をいつつ迄も生かして続けて下さい。御発展を祈りお祝の言葉までに。(一水会本部参与、名古屋支部員)

（前略）京絃君も早や満十五才に成人されました、六月には愈々百八十号の発刊を見る事となり愛読者の一人として心からお祝を申上げると共に、京絃君の産みの親植村先生の御苦勞に対し感謝致して居ります。今後益々御発展あられますよう祈り上げます。(後略)

（京都在住琵琶愛好者）

緑したたる新緑の御紙益々御活躍創刊十五周年を迎え内容いよいよ充実せられ斯界の為重ねられたる誠に偉大な御努力と功績に対し衷心より御祝申し上げます。(名古屋薩摩琵琶協会員)

針谷 錦古
（前略）京絃が斯界の羅針盤として琵琶道の為に御尽力研鑽賜りその御苦勞に対し只々感謝願の下がる思いが致します。どうか今後共一層の躍進御発展と主幹植村實水先生の御健康をお祈り申上げ祝詞と致します。(群馬琵琶連盟会長・錦古流詩吟宗家)

(以下次号)

暑中御見舞

錦心流一水会々々員 同 舞絃会々々員 武絃会事務所 伊藤 馨水 東京都小金井市本町一丁目八ノ五 電話小金井(四二三) 三三四四番 郵便番号 184	錦心流琵琶詩吟教授 箕水会々々長 田中 篁水 金沢市天神町二丁目六ノ十二 電話(〇七二) (三) 五五九番 郵便番号 920	鈴木 叫水 名古屋市昭和区向山町二ノ一七 電話(75) 七九七四番 郵便番号 466	中部芸能タイムズ社 主幹 西脇 和義 関西総局 大阪府東区南久宝寺町二ノ五六 電話(261) 一八九七番(代) 竹田ビル六階六〇三号 電話(32) 五八八一番(代) 中部総局 名古屋市中村区水主町一ノ三 電話(532) 五八八一番(代)	菅 沼 馨水 名古屋市中村区塩付通一ノ三五 電話(761) 四七〇八番 郵便番号 466	一水会名古屋支部副支部長 菅 沼 馨水 名古屋市中村区塩付通一ノ三五 電話(761) 四七〇八番 郵便番号 466
---	---	---	---	---	---

武絃会第七十 六月八日午後一時から小
一回研修会 金井市福祉会館で開催、左
記演奏をして六時散会した。龍の口一渡辺喜
山、白虎隊一具究静軒 松の廊下(出)五十嵐
清華 同(下)村上清芳 舟弁慶一加藤錦陽
西郷隆盛一高杉洲晴 恩齋の彼方へ一伊藤磐
水 橋大隊長一土田昇龍 旅順開城一清水源
城 井伊大老一杉山桜山

薩摩琵琶四明会創立二 風薫る六月八日
十周年記念演奏大会 (但)十一時より大阪
市立婦人会館にて標記の記念演奏大会が催さ
れたが開演一時間前の十時頃から続々と聴衆
が詰めかけ、三百人定員の座席も十一時には
約八〇%の入り。これは地元京阪神の名士の
外札幌、東京、横浜、浜松、名古屋、久留米
鹿児島等全国から四明会の二十周年を祝して
芸豪が出演されることになっていたからだと思
われる。舞台装置も落付いた上品な格調高
いもので好感が持たれた。
演奏は十一時から夕七時迄三十番の多きに
上ったが聴衆は最後まで熱心に聴き入り感銘
一入の面持ちで近來にない盛況であった。終
演記念撮影、続いて六十名に及ぶ祝賀宴も壮
観で午後八時一同は記念品を手にして有意義
な本大会を後にした。(演奏者と曲目前号参
照)

暑 中 御 見 舞

榎本 芝水 東京都世田谷区代沢二ノ 四八ノ三 電話(467)〇八二八番 郵便番号 15555	鉏路 錦心 倶楽部 会長 伊藤 甍水 太田 耕水
塩谷 旭洲 大阪市旭区大宮西之町八ノ一九 電話(951)九二九四番 郵便番号 535	星野 雄水 秋田市土崎港中央四丁目 九番二十六号 電話(45)〇三二一番 郵便番号 011
鈴木 誉士 東京都練馬区豊玉北五ノ 一一 芸の友社 郵便番号 176	伊藤 金次郎 鉏路市北大通五ノ六 電話(22)二四七三番 郵便番号 085
秋元 旭農 大阪市東区法円坂町 法円坂住宅二〇号ノ五 電話(4)六六二七番 郵便番号 540	名古屋薩摩琵琶協会 名古屋市中村区若宮町三ノ一四 会長 鎌田 岳造 方 郵便番号 453
旭会大教司	

京都琵琶協会 ①六月十五日(日)午後一時
定例茶話会 から市内徳雲寺に戸倉旭嶺
田中颯水、中島旭穂、中島真水、梅原旭嶺、
古谷寛水、矢吹華水、小林旭光、美登里進水
平井春嶺、植村真水諸氏出席のもとに開催。
すがすがしい新緑の庭園を背景に、例によっ
て夕刻迄各自一曲宛熱演を展開したあと夕食
を喫しながら、七月二十三日晚八坂神社の祇
園会に協賛して協会主催奉納演奏会開催、七
月末又は八月忽々附近高原の宿に一泊納涼会
を開くことなどを決定し八時散会した。
②七月六日午後一時徳雲寺で開催。平井、
水内、木村、小林、古谷、矢吹、梅原、中島
旭、若宮、伊吹、植村の各流派男女会員出席
弾交のあと食事を共にしつつ本月二十三日祇
園八坂神社に於ける奉納演奏会の詳細打合せ
や、八月二、三兩日比較比良連峰中腹の仙境
旅館比良山荘に一泊納涼会開催の件などを決
定して八時なごやかに解散した。

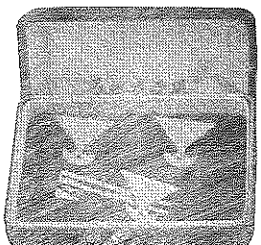
日本琵琶振興会 鈴木密水氏主宰の同会
六月 例会 六月例会は二十二日午後
から東京新宿駅前歌舞練場で開催。当日は生
憎の豪雨であったが夕方四時には八十七才の
伊藤旭敏氏や若干十才の石崎旭流君等を含め
錦心流一五、錦四、薩摩四、筑前旭会一〇、
同協会六、詩吟関係三、一般六合計四十八名
の参会者を数え弾交致刻、八時盛會裡に閉幕
した。

告 白

△比良山荘納涼一泊
演奏旅行 八月二日
出午後一時五十九分
京阪三条発京阪バス
で出発、三日梅の木
発午後四時半のバス
で六時半帰着(比良
山荘電話大津葛川)
かつらがわ)五八番)
△京都琵琶協会八月
定例茶話会 八月二
十四日(日)午後一時千
本出水西入上ル徳雲
寺(電話(463)六九
五二番)当番幹事植
村寛水、矢吹華水兩
氏、同好者の御来遊
歓迎

△日本琵琶振興会八
月例会 八月二十四
日(日)午後一時東京新
宿駅前尾津才二ビル
歌舞練場
△三美会演奏会
十月五日(日)昼夜京都
四条堺町山一証券ホ
ール、東西の各流派

琵琶撥型カフス釦、ネクタイ止、バックル



琵琶人用カフス釦、ネクタイ止、バックルの新製品が出来ました。
御希望の方は左記取扱者に御申込み下さい。(写真は薩摩系、筑
前系は五絃用撥型)

- | | | | |
|----------|------|-------|------|
| 東京 | 辻 靖剛 | 東京 | 松田静水 |
| 古田耕水 | 東京 | 原 梅水 | |
| 松田殊水 | 東京 | 輝水会本部 | |
| 水藤錦穂 | 大阪 | 芸の友社 | |
| 足利 新井蓮水 | 大阪 | 馬瀬檜水 | |
| 函館 樋口冠水 | 京都 | 植村寛水 | |
| 名古屋 稲葉葵水 | | | |

- ①カフス釦・ネクタイ止セット 撥面に雅号金文字彫刻入
バック付 サック付 一組 金千六百円
 - ②カフス釦・ネクタイ止セット 彫刻なし 一組 金千参百円
 - ③ネクタイ止 雅号金文字彫刻入ケース付 一個 金六百円
 - ④ネクタイ止 彫刻なし ケース付 一個 金五百円
 - ⑤バックル 彫刻なし ケース付 一個 金六百円
- 以上何れもロジュー(白金)鍍金完全仕上げ
販売期限 本年九月末日限 雅号彫刻約二十日間
(送料実費御負担の事、但前金御申込み限り製造元負担)
女性用帯止 試作中のところ製作困難に付中止
ク ブローチ 試作中

製造元 東京工芸製品協会
東京都北区田端町一五三
電話(821)六六六二番
振替 東京二〇〇四一番